

# 山科本願寺跡

(財)京都市埋蔵文化財研究所 柏田有香

はじめに (図 1～3、表 2)

- ・山科本願寺の位置
- ・山科本願寺の歴史

山科本願寺跡の主要な調査 (図 4、表 1)

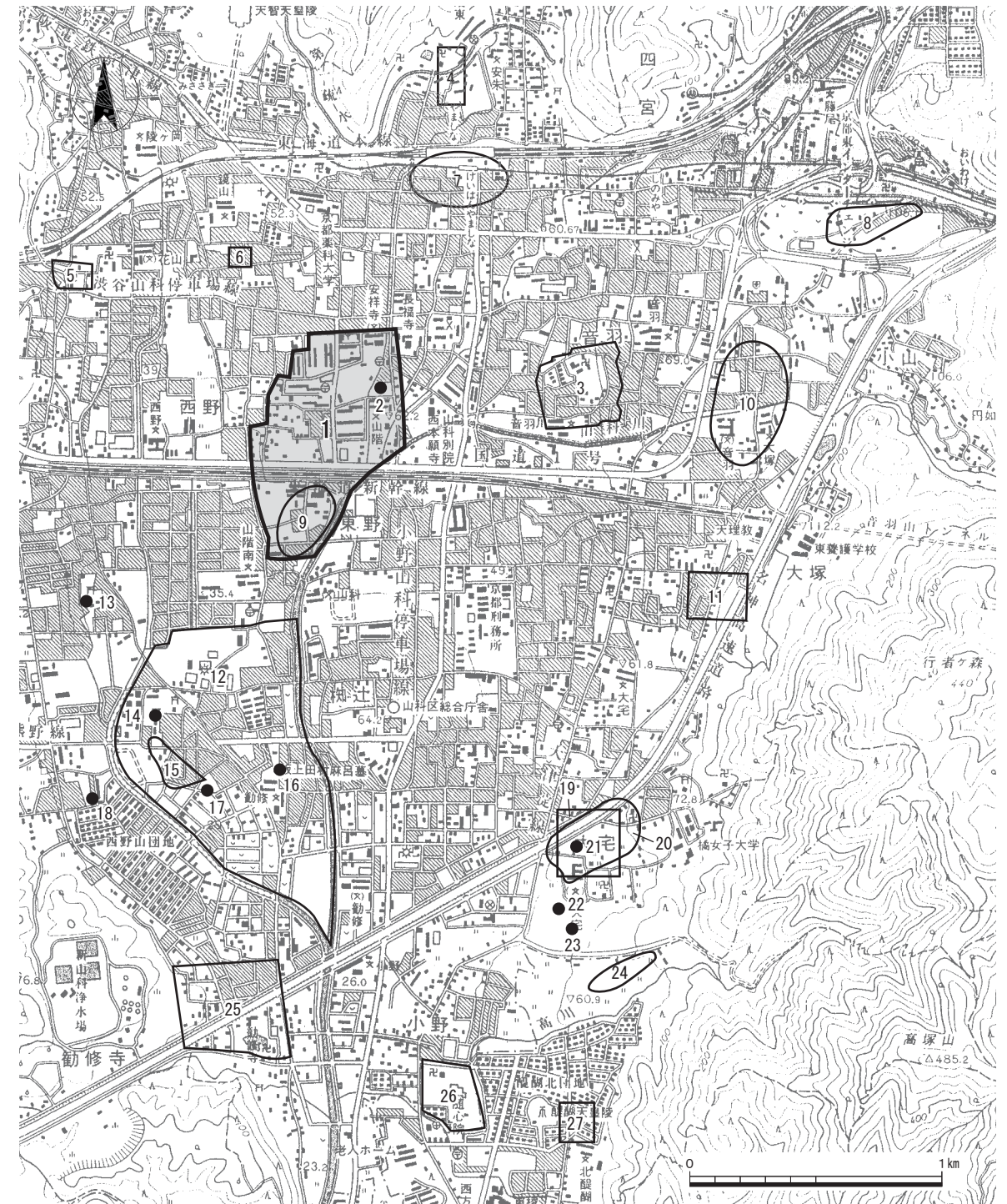
- ・新幹線敷設による初めての遺構の発見
- ・初めての本格的発掘調査 第 1・2 次調査
- ・開発の進展と発掘調査の増加、遺構保存の問題 第 6～8 次調査
- ・「御本寺」中心部での調査、重要遺構・遺物の発見 第 9～14 次調査
- ・保存に向けた調査 第 16～18 次調査

近年の調査でわかったこと

- ・土塁について 規模と構築方法、構築時期について (図 5～7)
- ・「御本寺」内の施設群の発見 庭、台所、風呂など (図 8～12、史料 1・2)

おわりに

- ・阿弥陀堂、御影堂の発見に向けて (図 13～16)
- ・今後の課題



- |                     |                      |                   |
|---------------------|----------------------|-------------------|
| 1 山科本願寺跡 (室町)       | 11 元屋敷廃寺跡 (奈良後期)     | 21 大宅古墳 (古墳後期)    |
| 2 蓮如上人墓 (室町)        | 12 中臣遺跡 (縄文～室町)      | 22 向山古墳 (古墳後期)    |
| 3 山科本願寺南殿跡 (室町)     | 13 花山神社古墳 (古墳後期)     | 23 大宅廃寺瓦窯跡 (奈良前期) |
| 4 安祥寺下寺跡 (平安)       | 14 稲荷塚古墳 (古墳後期)      | 24 醍醐古墳群 (古墳後期)   |
| 5 元慶寺境内 (平安)        | 15 中臣十三塚 (古墳後期)      | 25 勧修寺境内 (平安中期)   |
| 6 四手井城跡 (室町)        | 16 坂上田村麻呂墓伝承地 (古墳後期) | 26 随心院境内 (平安)     |
| 7 安朱遺跡 (縄文、飛鳥～鎌倉)   | 17 宮道古墳 (古墳後期)       | 27 小野廃寺跡 (奈良前期)   |
| 8 芝町遺跡 (縄文、弥生、奈良)   | 18 中島井古墳 (古墳後期)      |                   |
| 9 左義長町遺跡 (弥生～古墳前期)  | 19 大宅廃寺 (奈良前期～平安)    |                   |
| 10 大塚遺跡 (奈良前期～平安前期) | 20 大宅遺跡 (縄文)         |                   |

図 1 山科本願寺跡と周辺遺跡 (1 : 25,000)



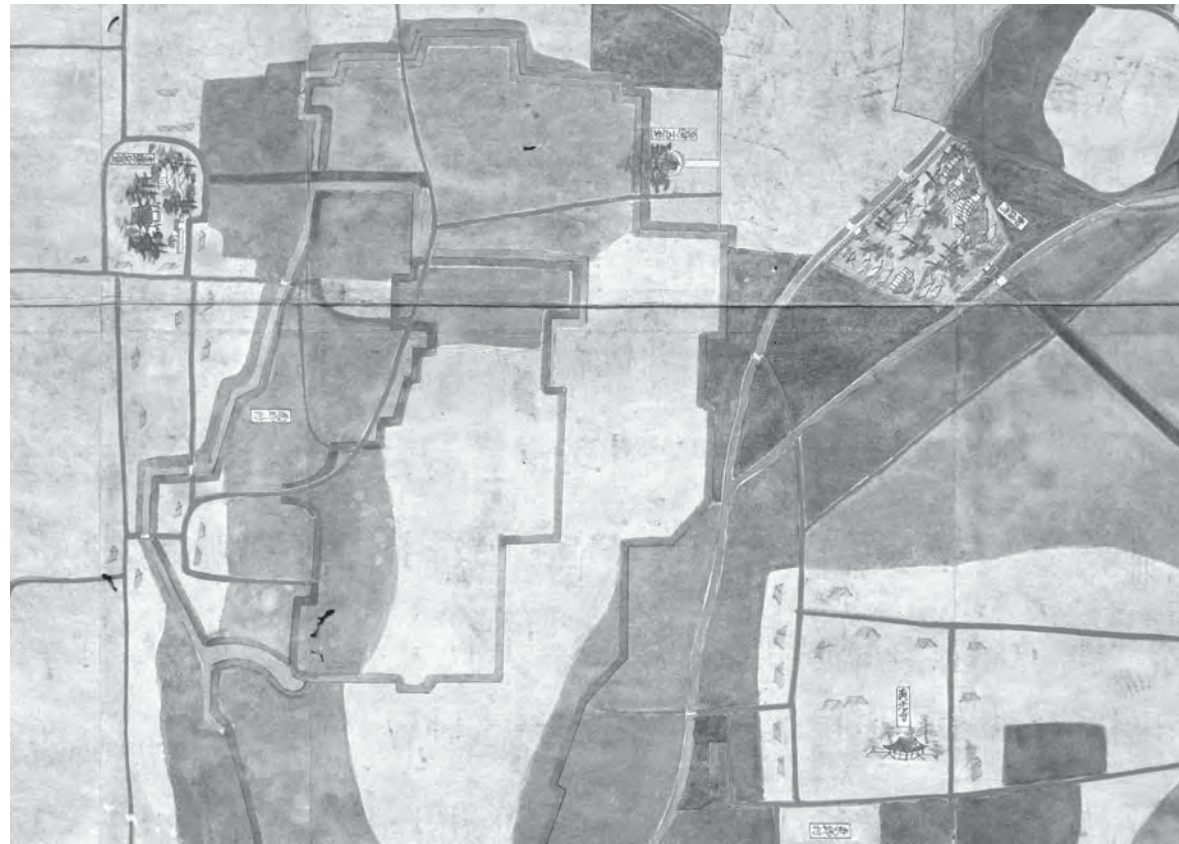


図2 山科古図の一部（京都府立洛東高校所蔵）



図3 昭和初期の山科西野地区（昭和11年製版）

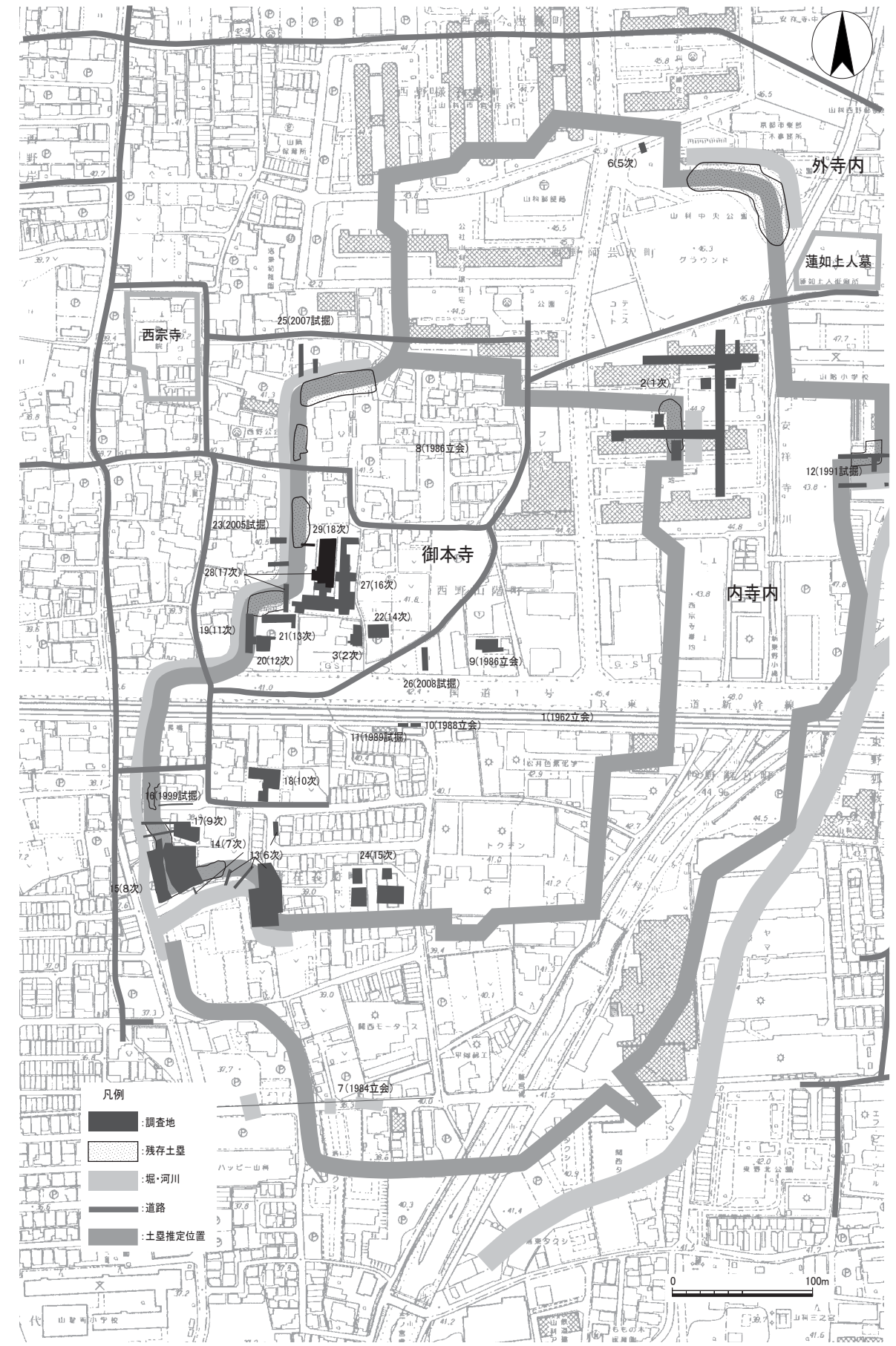


図4 主要調査位置図（1：4,000）



表1 主要調査一覧表

No.	調査名・回数	所在地：山科区	調査期間	方法	概要
1	新幹線立会	西野左義長町・山階町・離宮町	1962. 8. 9～11. 11	立会	南北方向の石組溝、暗渠、南北方向の土塁
2	山科寺内町遺跡第1次	西野阿芸沢町・山階町・離宮町	1973. 5. 21～8. 4	発掘	建物・鍛冶場、石垣、柵、南北方向の堀・土塁
3	山科寺内町遺跡第2次	西野山階町	1974. 10. 9. ～11. 3	発掘	石組溝、石室、庭園の一部
4	76RT-YG001第3次	西野今屋敷町9 (安祥寺中学校)	1976. 11. 17～11. 30	発掘	旧耕地
5	76RT-YG002第4次	西野大手洗町20 (山階小学校)	1977. 2. 14～3. 5	発掘	整地層
6	76RT-JN001第5次	西野阿芸沢町 (山科中央公園)	1978. 10. 30～11. 13	発掘	攪乱
7	83RT-SW061	西野左義長町・東野舞台町ほか	1984. 3. 6～11. 17	立会	東西および南北方向の堀、土坑群
8	85RT-SW054	西野大手洗町・今屋敷町ほか	1986. 4. 1. ～1987. 5. 16	立会	南北方向の堀と土塁、土坑
9	86BB-RT010	西野山階町12	1987. 1. 27～1. 30	立会	東西方向の石組溝
10	88BB-RT005	西野山階町29	1988. 5. 30～6. 2	立会	東西方向の石組溝
11	89BB-RT021	西野山階町29	1989. 10. 2～10. 14	試掘	東西方向の石組溝
12	91RT-AH001	西野大手洗町20 (山階小学校)	1991. 8. 2～10. 18	試掘	土塁と堀の屈曲部
13	96RT-HG001第6次	西野左義長町16ほか	1997. 4. 20～7. 10	発掘	東西および南北方向の堀、東西方向の土塁、暗渠、建物、井戸
14	97RT-HG002第7次	西野左義長町23	1997. 7. 16～9. 18	発掘	鉤型に曲がる土塁と堀、建物、井戸、鍛冶場
15	98RT-HG003第8次	西野左義長町23-1、23-4	1998. 8. 17～11. 9	発掘	南北方向の堀と土塁、暗渠
16	センターNo. 60	西野左義長町19-11ほか	1999. 10. 28	試掘	南北方向の土塁を測量
17	00RT-HG004第9次	西野左義長町19-11ほか	2000. 5. 10～6. 30	発掘	建物、溝、暗渠、土塁基底部
18	04RT-HG006第10次	西野左義長町13-2	2005. 1. 17～3. 18	発掘	東西および南北方向の堀、塀、柵
19	04RT-HG007第11次	西野山階町30	2005. 3. 1～3. 15	発掘	土塁基底部の構築状況を調査
20	05RT-HG008第12次	西野山階町30	2005. 5. 11～5. 25	発掘	土塁内側斜面と暗渠を検出
21	05RT-HG009第13次	西野山階町30	2005. 5. 30～7. 2	発掘	土塁屈曲部、泉状遺構、炉、土取穴、暗渠を検出
22	05RT-HG010第14次	西野山階町28-5、28-6	2005. 11. 11～12. 16	発掘	焼成土坑、庭園遺構、柱列を検出 多量の輸入陶磁器、ガラス玉出土
23	05 S 208	西野広見町31-11ほか	2005. 9. 20	試掘	御本寺西側を限る堀の西肩口を検出
24	第15次	西野左義長町25-4ほか	2006. 7. 31～9. 15	発掘	御本寺南側を限る堀状の落ち込み、土坑、井戸、溝、柱穴を検出
25	07 S 274、275	西野広見町5-7、5-10	2007. 9. 25	試掘	御本寺北側を限る堀の北肩を検出
26	08 S 103	西野山階町11-5ほか	2008. 9. 1	試掘	GL-0. 4mで整地層を確認
27	10RT-HG012第16次	西野山階町30-11ほか	2011. 1. 11～3. 11	発掘	整地面、焼土の堆積、通路状遺構を検出
28	11RT-HG013第17次	西野山階町30-11ほか	2011. 7. 21～9. 30	発掘	整地面、石組溝、土塁などを検出
29	12RT-HG014第18次	西野山階町30-11ほか	2012. 7. 17～10. 4	発掘	石組井戸、風呂関連遺構群、塀状遺構、土塁などを検出

表2 山科本願寺関係略年表

応永22年 (1415)		七世存如の嫡子として蓮如が生まれる。
長祿元年 (1457)		蓮如、本願寺八世宗主となる。
文明3年 (1471)		蓮如、越前吉崎に坊舎を構える。
7年 (1475)		蓮如、越前吉崎御坊を去る。
9年 (1477)		応仁、文明の乱一応終わる。
10年 (1478)	1月	蓮如、野村柴の庵に居す。馬屋新造。(この年、大津近松にて越年。) (山科本願寺の造営始まる。)
11年 (1479)	1月	整地と作庭を始める。
	3月	向所を新造。
	4月	堺の古坊を移し、寝殿をつくりはじめる。
	8月	庭できる。
	12月	御影堂建設用材柱50余本など、山科につく。
12年 (1480)	1月	三帖敷の小御堂を作る。
	2月	御影堂造作事始め。
	3月	御影堂、棟上の祝。
	8月	ひわだ大工をよんで御影堂の檜皮葺はじめる。 仮仏壇を設けて、絵像の御影をうつす。 整地。
	11月	大津にあった根本御影を野村にうつし、山科ではじめて報恩講を催す。
	12月	吉野で阿弥陀堂用大柱20余本をあつらえる。
13年 (1481)	1月	寝殿の大門柱立。
	2月	阿弥陀堂の事始め。
	4月	阿弥陀堂棟上。
	6月	仮仏壇をつくって、本尊をすえる。
14年 (1482)	1月	御影堂大門の事始め。 阿弥陀堂の橋隠の柱を用意。 阿弥陀堂の四方の柱も立つ。 大門の地形をならす。 四壁の内に排水用の小堀を南北に掘る。 門前の両所に橋をかける。 冬のたき火所だった四門の小棟を改築。
	4月	寝殿の天井をはる。
	5月	阿弥陀堂の仏壇をつくりなおす。
	7月	仏壇に奈良塗師をやとってぬらせる。
	9月	仏壇ぬり終る。
15年 (1483)	5月	河内菅田の野中之馬という瓦師をよんで、大葺屋をつくり、 西山の土で瓦を焼く。 阿弥陀堂瓦葺きおわる。
	8月	加賀一向一揆おこる。
長享2年 (1488)		山科南殿を造営する。
延徳元年 (1489)		大坂石山坊舎造営。
明応6年 (1497)		蓮如大坂から山科南殿に戻る。
8年 (1499)	2月20日 3月25日	蓮如没す、85歳。
大永5年 (1525)		九世宗主実如没す。証如、十世宗主となる。
天文元年 (1532)	8月24日	法華宗・延暦寺・六角氏の攻撃により焼亡。山科本願寺陥落。
2年 (1533)		証如、石山坊舎を本寺と定める。本願寺大坂へ移転。
5年 (1536)	7月	天文法華の乱。
元龜元年 (1570)		織田信長との石山合戦開始。
天正8年 (1580)		本願寺証如、信長と和睦。石山本願寺退去。 その後、紀伊鷲森・泉貝塚・大坂天満と移転を繰り返す。
14年 (1586)		豊臣秀吉の朱印状をもって山科に寺領を回復する。
19年 (1591)		本願寺、京都七条堀川(現西本願寺)へ移転。
慶長7年 (1602)		東本願寺別立。このときから東西本願寺となる。
享保年間 (1716～1736)		東西本願寺がそれぞれ山科別院を建立。

(西川幸治「都市史の中の中世寺院」『国立歴史民俗博物館研究報告』第8集 1985年を一部改変)

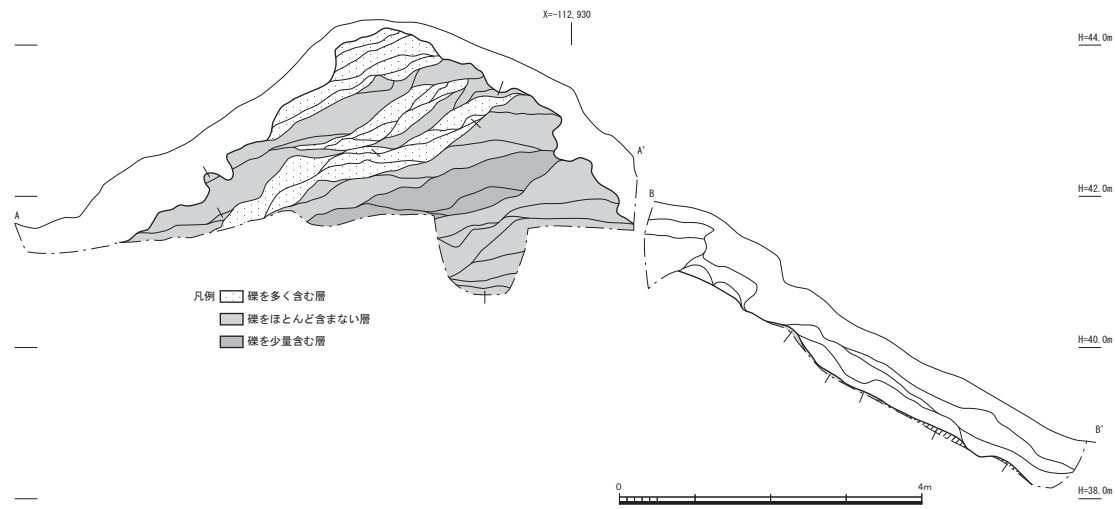


図5 17次調査土塁断面図 (1 : 100)

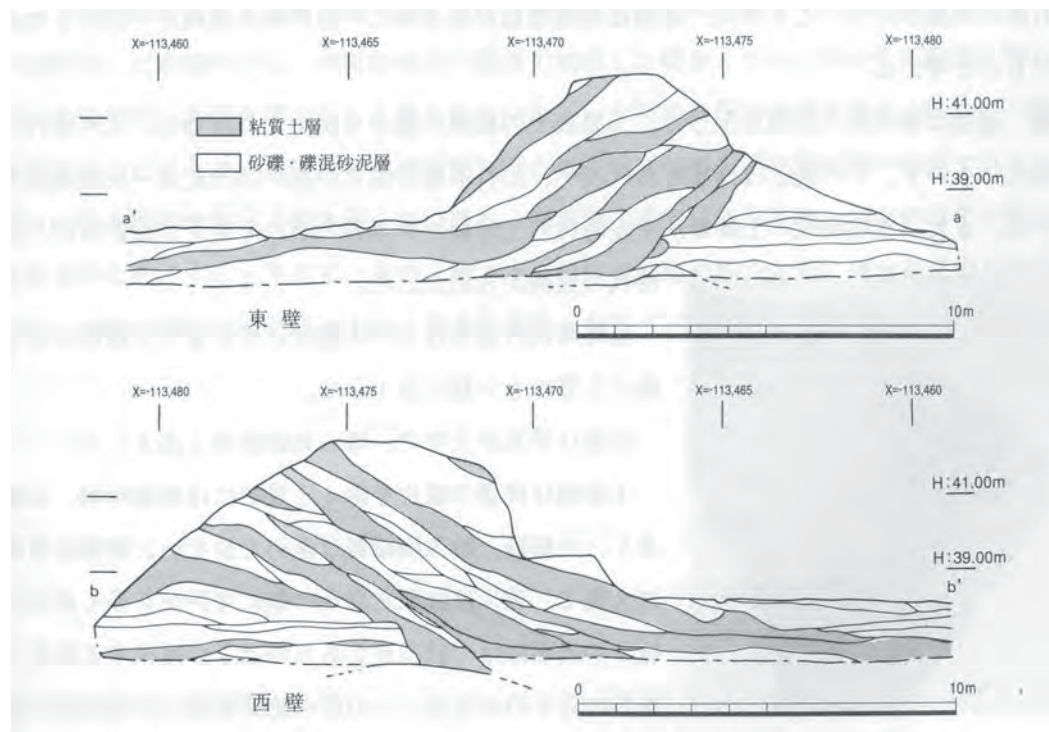


図6 7次調査土塁断面図 (1 : 200)

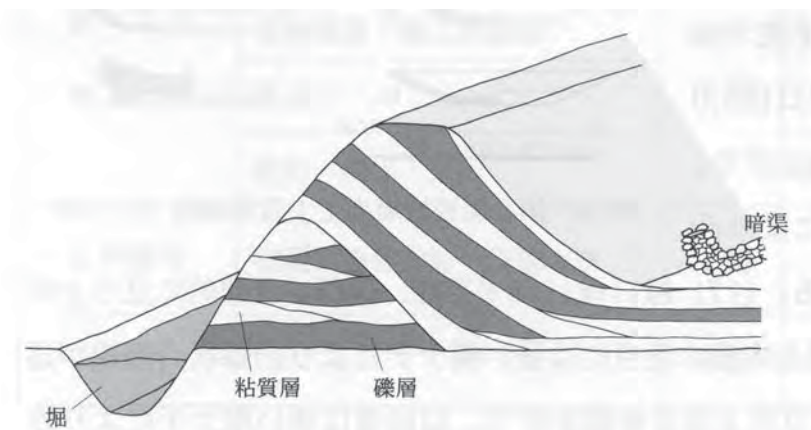


図7 土塁断面模式図

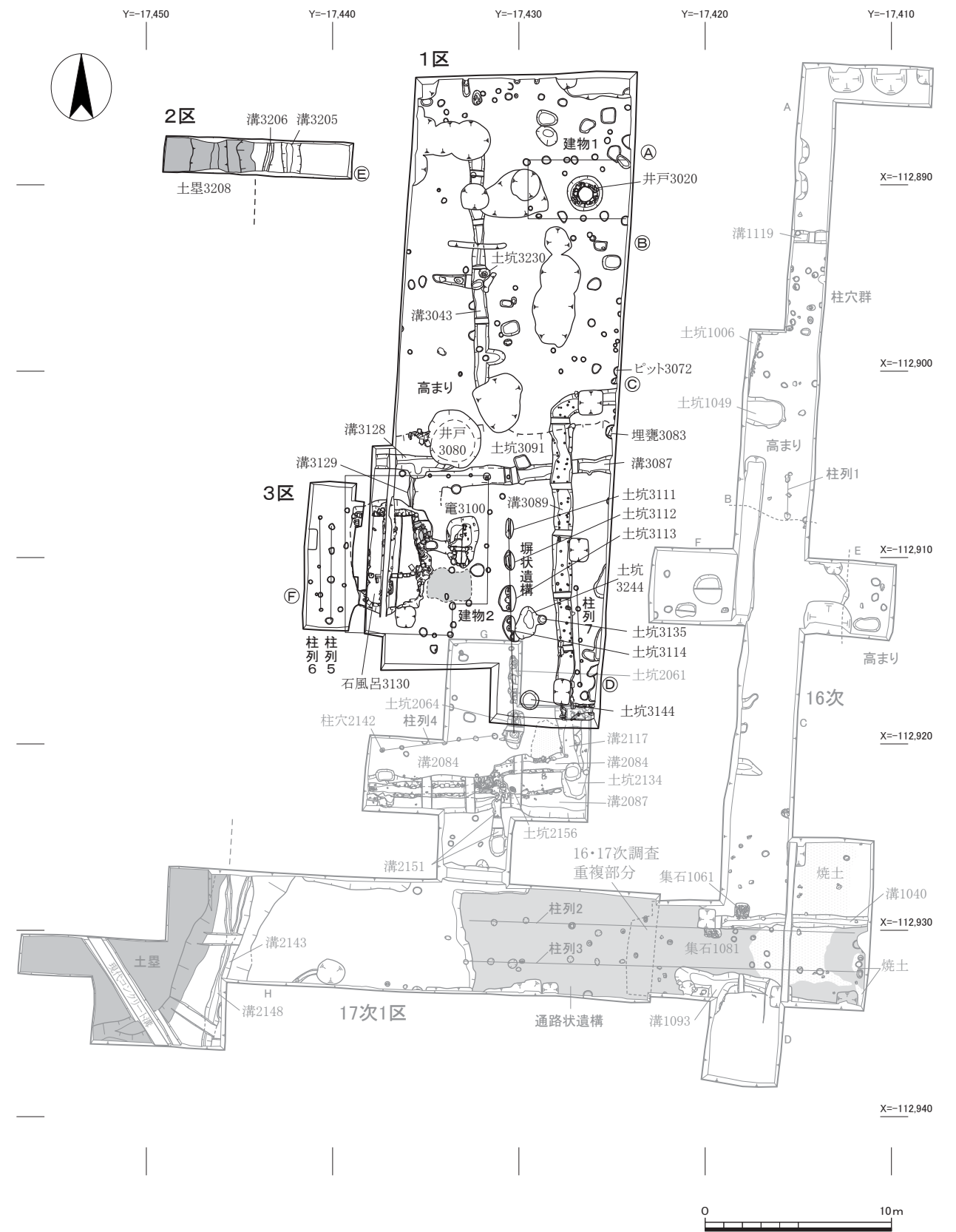


図8 第16~18次調査遺構平面図 (1 : 300)



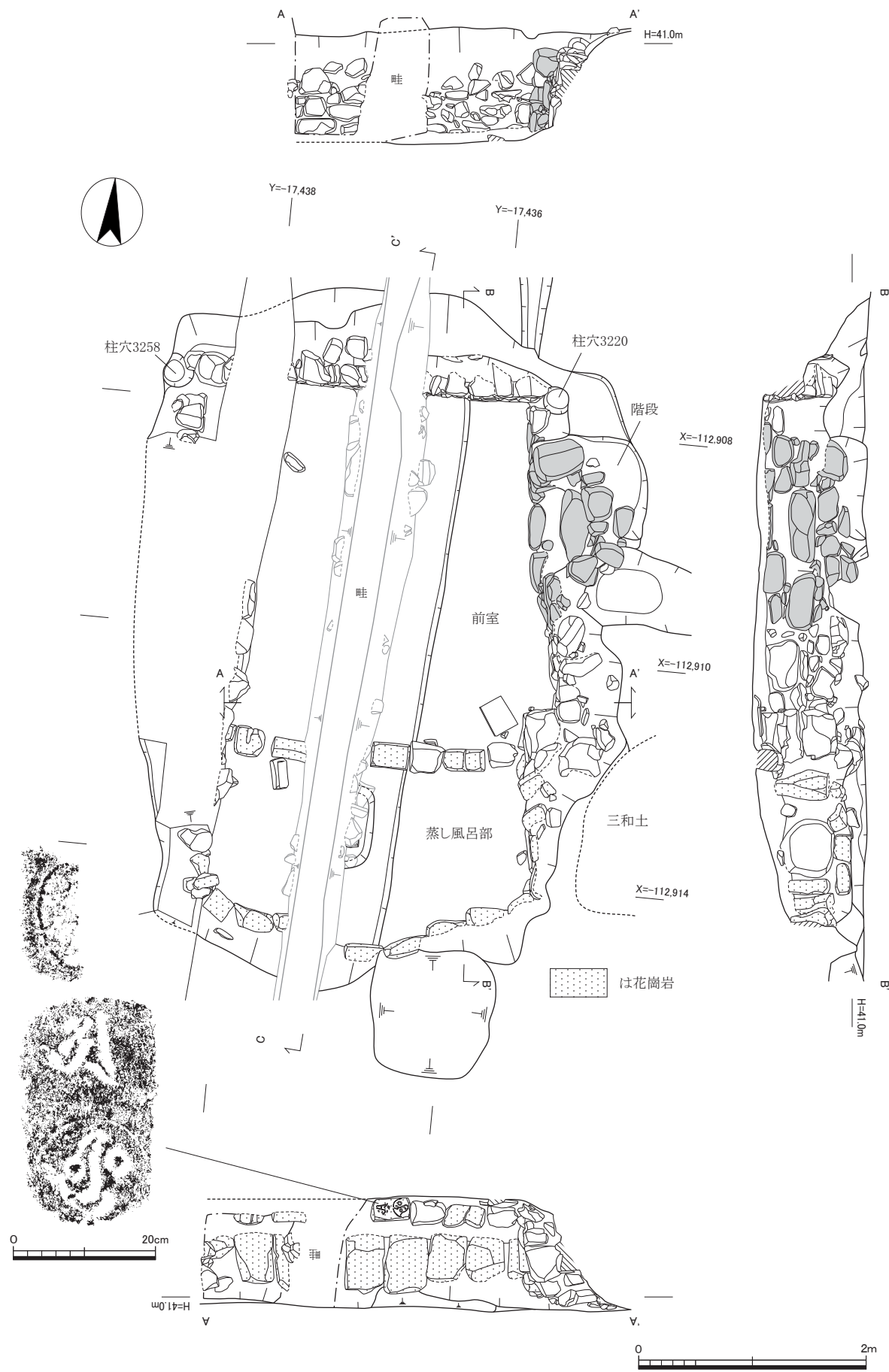


図9 石風呂3130実測図 (1:50)



図10 京都府 八瀬かまぶろ

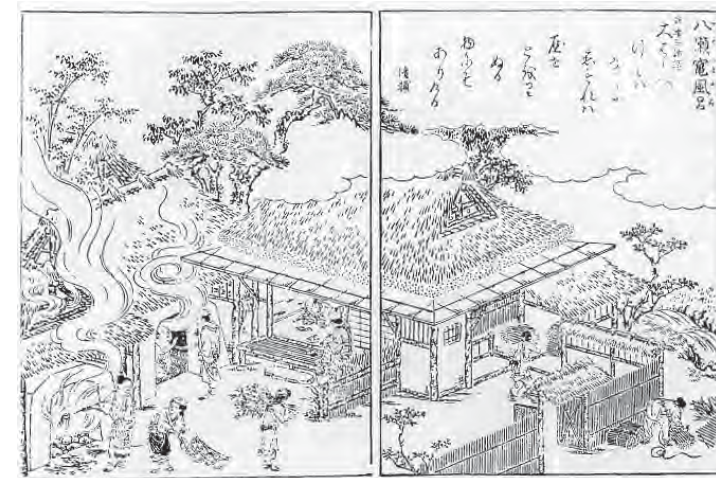
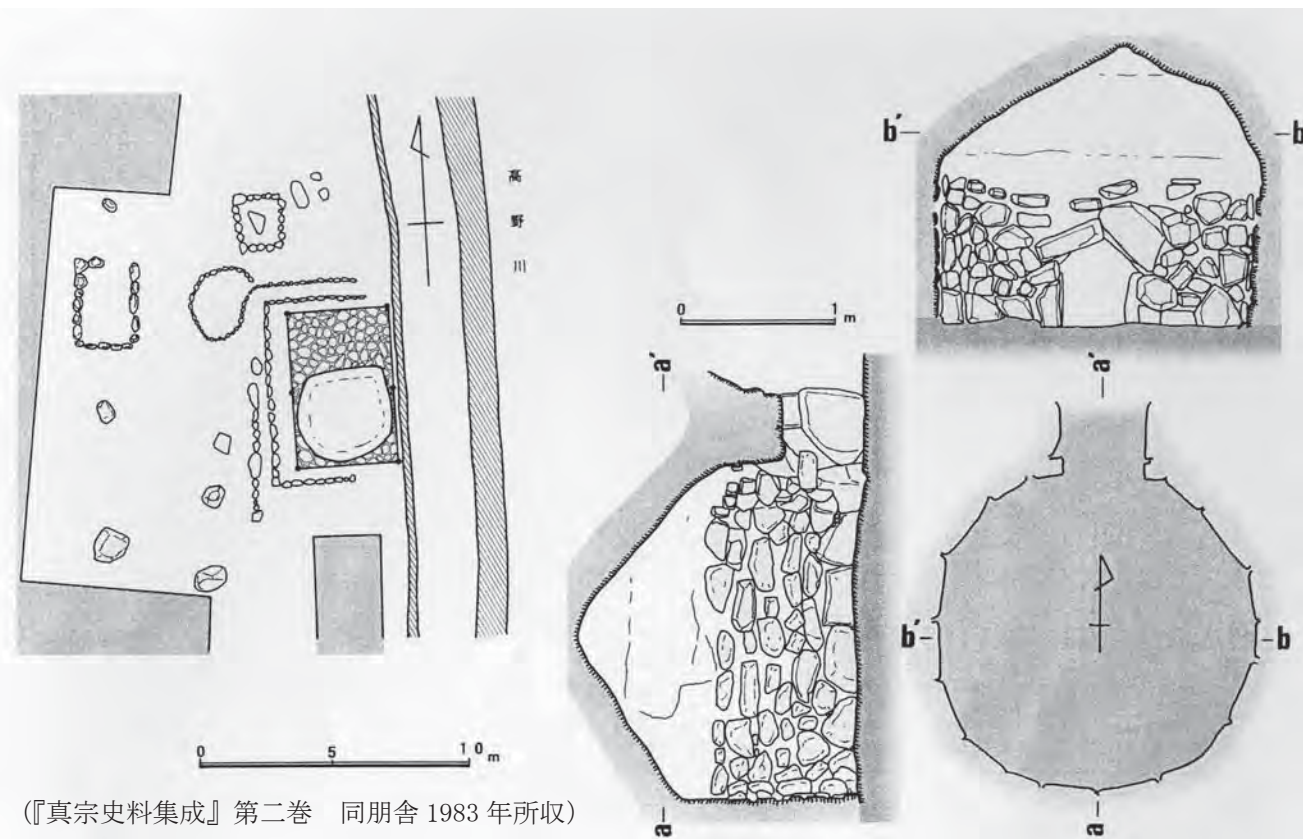


図11 『京都名勝図会』の八瀬かまぶろ



(『真宗史料集成』第二巻 同朋舎 1983年所収)

図12 八瀬かまぶろの配置図と内面図

史料1 『実如上人闍維中陰録』(『真宗史料集成』第二巻 同朋舎 1983年所収)

「一、廿日風呂アリ。土呂殿ヨリ御焼候。又寺内七郷ノ風呂ヲモ悉御焼候也。」

史料2 『本願寺作法之次第』(『真宗史料集成』第二巻 同朋舎 1983年所収)

「野村殿にてハ毎月風呂立申候に、風呂の入口は二ツ御入候。御住持の出入の口ハ脇二御入候。総出入の口ハ如常。是も昔は只一にて御入候を、五山などの長老の出入の口ハわきに別に候段きこしめし、円如御申候て如此候。一家衆其禪衣の人々御内衆同前二入申候。一家衆ハ召仕候者一人宛つれて入申候、垢かく者候はてハとて如此候。古より此分候。廿五日と廿八とに立申候へ共、あひた近く候段にて、前月に廿五日たち候へは、後月ハ廿八日、毎月一度の心、御客人候へハ臨時に幾度も立られ候き。」



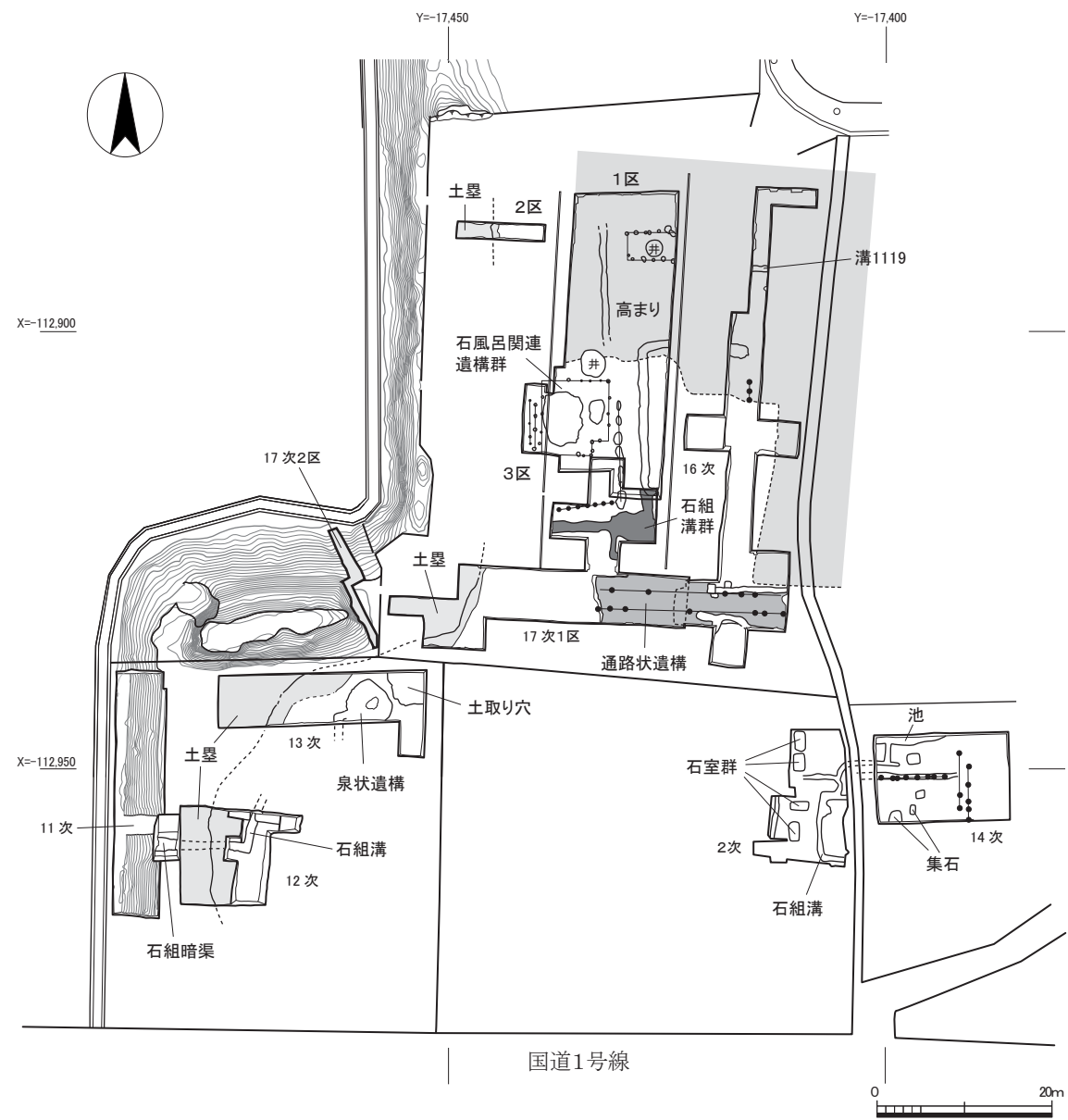


図13 「御本寺」遺構分布図 (1 : 800)



図14 「本願寺」『都名所図会』(『新修京都叢書』第6巻 臨川書店 1967年より転載)

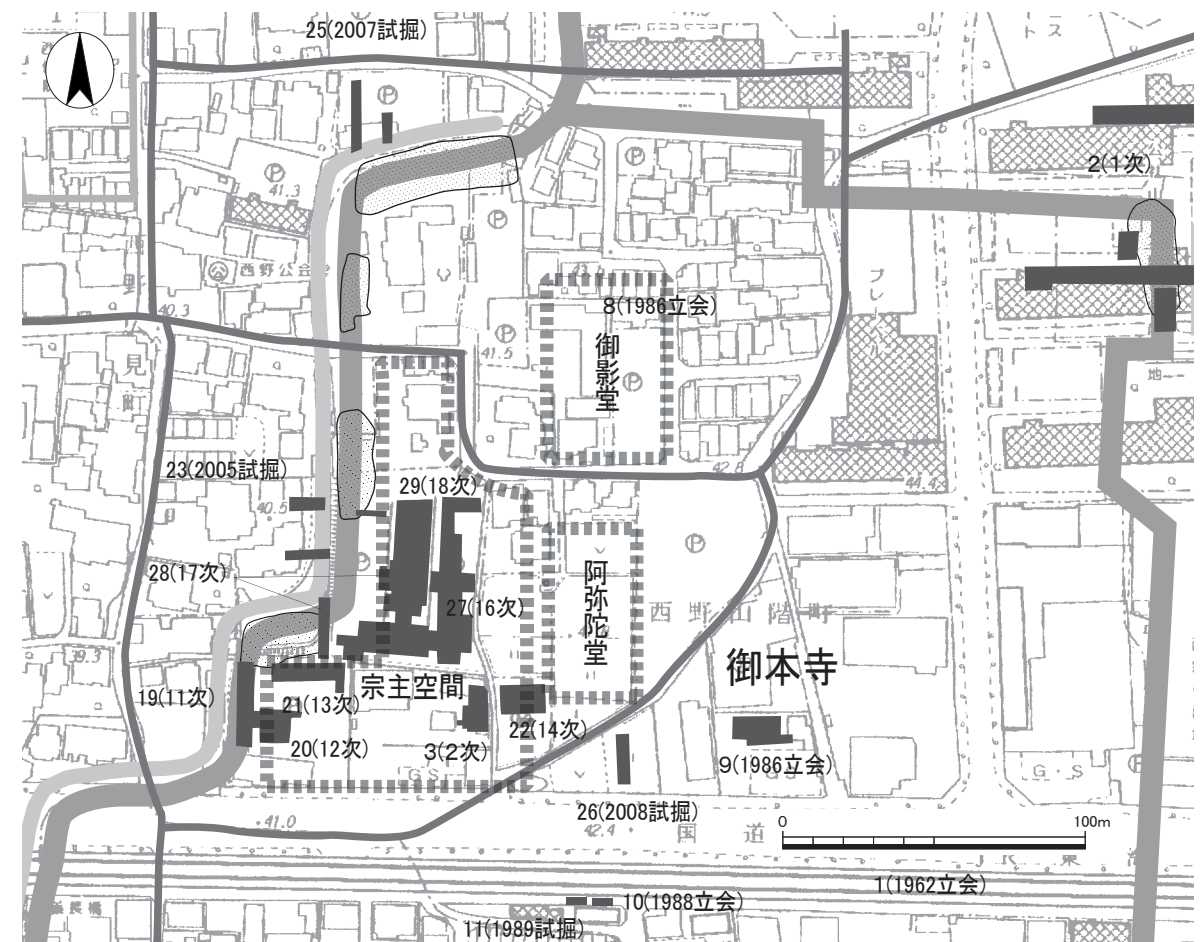


図15 「御本寺」中枢施設推定図 (1 : 2,500)



図16 山科本願寺イメージ図 (梶川敏夫作)